

熊本大学医学部附属病院

研修医 瀬尾 優太郎 2015年9月

熊本大学病院初期研修医 2年目の瀬尾優太郎と申します。この度は9月の一ヶ月間を地域医療研修としてこの出水で生活し、研修を終えることができましたので、ご報告並びにご挨拶させていただきます。

まず初めに自己紹介ですけれども、私の父が転勤族でして、鹿児島県奄美大島の笠利町という田舎町にいるときに母が私を身ごもりました。いざ出産となった時に帝王切開が必要ということが分かりましたが、当時の奄美大島では帝王切開ができず急遽飛行機で鹿児島へ飛び、鹿児島市立病院で生を受けました。そのときの話を両親から聞いたときに鹿児島の離島や僻地の医療について考える機会となるはずでしたが、幼い私にとっては「出産って島じゃできないんだなあ、大変だなあ」くらいにしか考えていませんでした。数学が好きだった私は漠然と「数学者」という夢を追って理学部に進学しましたが、これまで学んだことが無かった生物に興味を持ち、次第にヒトのカラダへ興味があつていきました。といった経緯で医学部に再入学し、現在産婦人科医を志して研修中です。

今回、出水での研修を選択した理由はいくつかあります。一つ目は立地です。熊本県と鹿児島県の県境にあるこの病院は、おそらく鹿児島大学と熊本大学の両方から先生方がいらっやっているのでないか。体は鹿児島育ちですが、医療の勉強は熊本育ちの私にとっては鹿児島の現状を知る良い機会になると思いました。ただし私が月の初めにひいた風邪が長引き、ことごとくアフター5の先生方との交流の飲み会を欠席したため、この目的はほとんど達成されていません、残念です。体調管理が今後の課題となりました。二つ目は鹿児島大学病院の研修医も受け入れているということ。今回は鮫島くんという爽やかな青年と一緒に、鹿児島大学での研修の様子など沢山話を聞くことができました。また彼は積極的に内科救急を受け入れる病院での研修も経験していたため、救急の初期対応や抗生物質の選択などの話もできてとても刺激を受けました。三つ目は診療所での研修ができる点。出水総合医療センターのように地域医療研修を受け入れている病院は、実際その地域の核となる病院であることが多く、救急患者は3次まで受け入れざるをえなかったり、多科をもち、ある程度何でも検査出来る。そうすると現在研修している福岡の市中病院を少し規模を小さくしただけになってしまう。そこで限られた医療資源で高齢者に立ち向かう診療所の現場をみたいと思い、出水を選択することとしました。

出水に到着した際の第一印象は「結構色んな店が揃ってるな」といった感じで、僻地医療を経験するために意気込んでいた私にとっては都会にすら見えました。しかし実際は患者さんは後期高齢者の割合が多く、診療科はいくつもあるものの医師の数は少なく一人一人の負担はとても大きいように感じました。この病院がこの地域を守る最後の砦なんだろう、そういう病院が日本中いたるところにあるのだろうなと思うと、「田舎ってのどかでよいな〜」とおだやかな気持ちでもいられなくなりました。研修では診療所や医療センターで主に外来の診察を担当させていただきましたが、高齢者の独り暮らしや交通手段のない患者さんなど様々な生活状況の中では、同じ診断であっても入院の適応は様々であることに気付かされました。大学病院や福岡の街中にある病院ではいつまでたっても気がつかないかもしれません。地域を支える医療、その中に今後私も参戦する 때가必ずきます。そこが出水では無いかもしれないけれど、出水での1ヶ月をベースとして今後も地域医療に関わっていきたいです。

この度はお忙しい中、熱く厳しく御指導くださり本当にありがとうございました。